

# 予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉦業振興費

## 事業名 伝統的工芸品技術継承促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 地域産業課 伝統産業振興係 電話番号：058-272-1111 (内 3095)

E-mail：[c11355@pref.gifu.lg.jp](mailto:c11355@pref.gifu.lg.jp)

1 事業費 9,368 千円 (前年度予算額：11,840 千円)

### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	11,840	1,000	0	0	0	0	0	0	10,840
要求額	9,368	3,159	0	0	0	0	0	0	6,209
決定額	9,368	3,159	0	0	0	0	0	0	6,209

## 2 要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

伝統工芸品は、本県のモノづくり産業の原点であり県の誇りである。さらに本県の伝統や文化を現代に継承し、生活の豊かさや潤いを与えるものであることから、次代に継承すべき貴重な宝である。

しかし、県内の伝統工芸産業は、中小零細性が強く、生活様式の変化や安価な輸入品の増加により、業界をめぐる環境は悪化し、業績の低迷、原材料不足、後継者不足が課題となっている。加えて、後継者不足から生じる伝統技法の継承とそれを支える製造用具の確保も課題となっている。

### (2) 事業内容

本県の伝統工芸品産業の振興を図るため、伝統技法の継承に向けた製造用具の確保を支援するとともに、需要拡大・販路開拓を支援する。

#### 1) 伝統的工芸品等の製造用具等アーカイブ化

- ・伝統的工芸品等の技術継承のため、製造用具等の確保に向けたアーカイブ化 (設計図等の作成、機械の試作) を進める。

#### 2) 原材料の確保に向けた調査研究

- ・伝統的工芸品等の原材料の確保のため、調査研究を実施する。

3) 伝統的工芸品の需要開拓、販路拡大に向けた取組みの推進

- ・大都市圏での展示販売を実施する。
- ・「伝統工芸 青山スクエア」に出展する。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県のモノづくりの原点である伝統的工芸品等の振興を図る取組みとして県の負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

(千円)

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	282	職員業務旅費
需用費	285	消耗品
役務費	23	通信運搬費、サンプル等発送費
委託料	8,778	展示販売・出展経費、アーカイブ化等
合計	9,368	

**決定額の考え方**

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

[3]地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

④「ぎふブランド」づくり

(2) 事業主体及びその妥当性

本県の伝統的工芸品の振興を図るとともに、その伝統技法を将来に継承していくため、それらを支える製造用具の確保や、需要拡大・販路開拓等の支援を実施するものであり、県が事業主体となることは妥当である。

# 事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
地域ブランドの育成や県産品の市場の拡大を図り、ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくりを目指す。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値	目標	達成率
振興計画の策定数	4 (R1 年度末)	—	4 (R2)	6 (R3)	66.6%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （前年度の取組）

- ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

＜令和2年度実績＞

全国の伝統的工芸品を一堂に集めた工芸品展が首都圏で開催され、出展する組合を支援した。また、伝統的工芸品に特化した国内最大級の場である青山スクエアでの展示会を開催した。

（1）暮らしの中の伝統的工芸品展

日時：令和2年8月19日（水）～26日（水）

場所：小田急百貨店

参加人数：702人（概算）（初開催のため前年度の実績なし）

（2）伝統工芸青山スクエア

日時：令和3年1月8日（金）～21日（木）

場所：伝統工芸 青山スクエア 特別展

### （前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果  
伝統的工芸品等の効果的な普及啓発、需要喚起を図ることができるとともに、消費者ニーズの把握を通じた新商品開発の効果もある。

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	事業者の大半が中小零細事業者であり、財政基盤がぜい弱であるため、伝産協会（経済産業省）と連携した取組みなど、継続した業界支援が必要である。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	一般消費者やバイヤーも含め、国内でも最大の購買層がいると考えられる大都市圏において、積極的に展示販売事業を実施することにより、各事業者は、伝統的工芸品等の効果的な普及啓発、需要喚起を図ることができるとともに、消費者ニーズの把握を通じた新商品開発に資するため、有効である。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) ○	事業内容を精査したうえで、必要額のみを予算措置し、経費削減につとめている。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 人々の生活スタイルや嗜好の変化に伴い、本県の伝統的工芸品の需要は著しく縮小している。
--------------------------------------------------------------------

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 伝統的工芸品は、現在のモノづくり産業の原点であるとともに、本県の伝統や文化を他県や外国へアピールする象徴であり、失ってはならない本県の貴重な宝であるため、引き続きその魅力をPRし、需要拡大にかかる支援が必要である。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	